

【相談】



センタ穴ドリルとは、どのような加工に用いられる切削工具ですか？
私の加工現場では、「位置決め」や「面取り」に使用していますが、
本来の使い方は、どのようなものなのでしょうか？

【回答】

センタ穴ドリルを「位置決め」や「面取り」に使用している方は
多々おられますが、本来は、センタ穴の加工を専用に行う切削工具
になるんですよ。詳しくは下記の説明を見てくださいね。

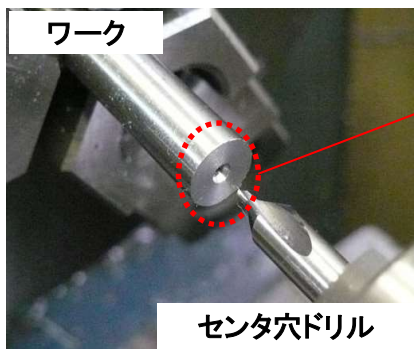


【説明】

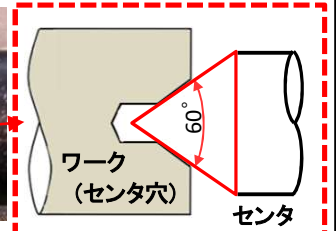
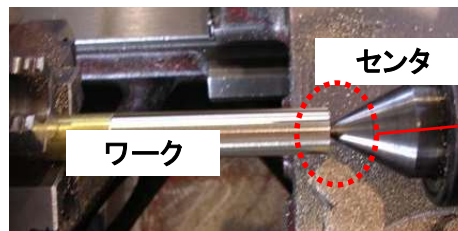


「センタ穴」は、旋盤で円筒旋削加工を行う時や、研磨機で円筒研削加工を行う時、ワークを回転させるための中心として利用される穴です。
センタ穴には、回転ワークを保持するための「センタ」が差し込まれ、それを中心にワークが回転され、旋削加工や研削加工が行なわれます。

※下記の写真は、センタ穴加工をしている様子と、センタを差し込んだ様子です。



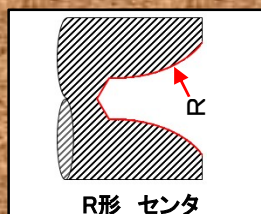
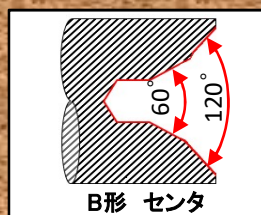
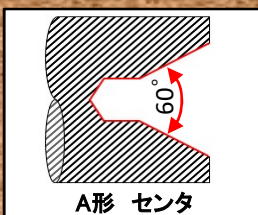
センタ穴の
拡大写真



ワークとセンタの
組み合わせイメージ図

「センタ穴」にセンタが挿入されて円筒加工時の基準になるのですね。
よく分かりましたが、「センタ穴」の形は何種類くらいあるのですか？

【センタ穴の種類】 (座ぐり角60° の例)



センタ穴の(座ぐり)角度の規格は、通常用いられている「60°」の他に「90°」や「75°」があります。

また、センタ穴の形状も、いくつか種類があります

センタ穴の角度が「60°」のタイプでも、通常用いられている「A形」、120°の面取り角がついた「B形」、沈み穴がついた「C形」があり、また座ぐり部がR形状になっている「R形」があります。

※「センタ穴の種類」を参照してください。

